

東大野球部



メルマガジン

Vol.122

いあつわて

梅雨明けが待ち遠しいこの頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

東大野球部では、先週末に行われた国立戦決勝で10対0の6回ワールド勝ちをおさめ、国立戦3連覇を果たすことができました。決勝戦の観戦に東大球場までお越しいただいた皆様、ご声援誠にありがとうございます。主に下級生を中心に臨んだ試合での優勝は、下級生にとって大きな自信となったことでしょう。これを糧に、一層気を引き締めて練習に励んで参ります。

今後とも、東大野球部を宜しくお願いいたします。

今後の日程

〈京都大学定期戦〉

7月4日 14:00～ vs 京都大 @ 京都大G



印象に残っている試合

今回の特集は、「印象に残っている試合」です。今までの野球人生で最も印象に残っている試合、今の自分の糧となっている試合を、選手5人に聞いてみました。

袖野 康弘（4年・外野手・学芸大附）

私が今までで一番思い出に残っている試合は、2000年9月24日の巨人対中日戦です。0対4で9回裏を迎えた巨人は、江藤選手の満塁本塁打で同点、続く二岡選手の本塁打でサヨナラ勝ちという劇的な形でリーグ優勝を決めました。当時テレビで観戦していた小学生の私は史上最大の興奮を覚え、巨人ファンになりました。部内では巨人ファンはマイナーな存在ですが、これからも応援し続けたいです。



横田 悠天（3年・外野手・学芸大附）

僕の野球人生の中で特に印象に残っている試合として、少年野球での試合を書きます。その試合は僕が野球を始めて初の試合でした。まだ何が何だかわからず、緊張もなく、本気で打つことしか考えていませんでした。結果は遊ゴロでした。その時、人生初の『悔しい』という感情が沸ぎ上がってきました。そこから練習に興味を持ち始めたのだと思います。この試合は僕にとっての原点です。



斉藤 正直(3年・投手・長崎青雲)

僕の野球人生で1番記憶に残っている試合は、小学生のときに初ランニングホームランを打った試合です。9回表、0対3、満塁で僕に打席が回ってきました。アウトコースのボール球だったので、食らいついて打ったボールはライト前に転がりました。ところが、そのボールをライトが後ろへ逸らしたため、結果、ランニングホームランとなりました。ダイヤモンドを一周し、ベンチへ帰ってきてみんなに祝福されたときのあの喜びは一生忘れられません。



上田 将成(2年・投手・南山)

自分が1番印象に残っている試合は先日行われた慶應義塾大学との新人戦です。自分の中では「ここでやらなければもう次はない」くらいの強い覚悟で臨んだこの試合で、自分の任されたインニングをOに抑えることができたのは自信になりました。

この試合で得られたものをリーグ戦で発揮できるように、これからも一生懸命頑張ります。

田宮 克真(2年・捕手・東農大一)

高校最後の夏の大会、早稲田実業に6対2で敗れた試合が1番印象に残っています。

春の選抜大会に出場した名門校とグラウンド上で対等に戦うチームメイトへの憧れや、何も出来なかった自分の情けなさや無力感、そして何より、応援してくださった方々の「ありがとう」の言葉は今でも忘れることはできません。



編集後記

今回の特集はいかがでしたでしょうか。選手それぞれには、印象に残る試合があるようです。応援して下さる皆様にも記憶にとどめていただける試合ができるように、日々励んでまいります。今後とも、東京大学野球部をどうぞ宜しくお願いいたします。

お問い合わせ先

〒113-0023

東京都文京区向ヶ丘1-5-9 一誠寮

TEL&FAX 03(3811)5100

メールアドレス office@tokyo-bbc.net

メルマガについてのご意見、配信停止のご希望等ございましたら上記連絡先までご連絡下さい。

